



創造・感謝・勤労

飛 幡 中

2018年度

北九州市立飛幡中学校 学校通信

平成31年3月11日 No. 26

発行責任者 校長 池 浩幸

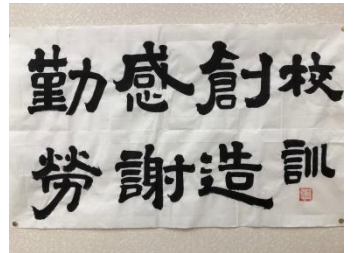
学校所在地 戸畑区小芝一丁目8番20号

TEL093-882-3652 FAX 882-3618

【感動的な卒業式、ありがとう、第21期生！】

○先週8日（金）は、第21回卒業式でした。小春日和の好天にも恵まれ、3年生がきちんとした服装で式に参加し、厳粛に執り行うことができました。卒業証書授与も、1組の最初から5組の最後までほとんど全員が大きな声で返事をするなど大変立派なものでした。さらに、式後の合唱の場面では、涙でいっぱいの感動的なものとなりました。1年生の時から元気にあふれ、様々な取組を乗り越えてきた3年生、この日ばかりは、「儀をもって礼をつくして」くれました。やはり、これがまさに「やればできる」飛幡中。これまでにないほどの精一杯の思いで発揮し、立派で、感動的な卒業式となりました。

3年生、本当にありがとう。そして、今までお疲れ様でした。



卒業式の式辞の中で、卒業生に贈った言葉です。

校訓

皆さんの門出にあたり、あらためて本校の校訓について述べたいと思います。先日、体育館ステージ右側前方に、念願の校訓を掲げることができました。北九州市在住で、フランスやイタリアなど海外でも活躍されている書道家、「栗原光峰」先生にお願いして書いていただきました。

「創造」、まさに今の君たちにぴったりの言葉です。創造とは、何かを作ることだけではなく、自分に起こったことや、そこにある物や人に対してどのような考え方を持つか、感情を感じるかということでもあるようです。起こる出来事は選べませんが、それに対してどう思うかは自分で決められます。思考を選ぶことで、創られる現実・未来が変わってくるということです。

九年間の義務教育を終えますが、これから先は自分自身の創造力で様々な道を切り開いてください。

「感謝」、義務教育を終える今、せめて今日の日くらいは一言、お家の方に礼をつくしてくださいね。「有難い」とは、条件がそろった環境が「有る」のが「難しい」理由からくる言葉です。今の日常が、自分が有難い境遇にあることを忘れないでください。感謝の心は、相手を認め、自分を鑑み、結果、自分の心が豊かになるものです。

「勤労」、これまでは勉学や部活動等に励むことでした。受験が終わわり、ほっとしている人も多いでしょう。が、学ぶべきものは教科の学習ばかりではありません。高校に進学しても、その先就職しても、時と場に合わせたコミュニケーション力や思考力・判断力が問われます。基本的な挨拶ひとつから、人として学ぶべきこと、励むものはまだまだたくさんあります。生涯をかけてです。

学校によって校訓は様々ですが、この「創造・感謝・勤労」は、まさに本校にふさわしい、良く考えられた校訓です。

飛幡中学校を巣立ち、それぞれの進路に向かって、大きく羽ばたいていこうとしている皆さんに、あらためて励ましの言葉としてこの校訓を贈ります。

【さあ、修了式まで10日足らず！先輩たちの意を引き継ぎ、有終の美を！】

○3月は別れと旅立ちの時期です。3年生はそれぞれの道を歩き始めました。



1・2年生も残り8日間しか登校しません。しめくくりと気持ちの整理をきちんとしてから、進級していききたいものです。飛幡中の先輩たちの良き伝統を引き継ごうとしている今、ちょっとした「つけ」を次の学年にまで持ちあがってほしくありません。卒業した3年生とともに、本当にここまでよく頑張ってきた1・2年生、最後を「有終の美」で飾ろうではありませんか。最後の8日をしっかりと過ごそう！

服装・身だしなみをきちんとすることにプライドを持って！

○今日から1・2年生だけの学校生活になり、校舎内は何となく淋しい一日でした。しかし、さすが2年生！もう自分たちが最上級生となり、学校を引っ張っていくのだと、授業態度や言動に自覚ある人たちが出てきました。すばらしい事です。それが飛幡中の良き伝統です。服装や身だしなみ、おしゃれについても同じことが言えます。今まで何となくだらしく着ている人もいましたが、進級するにあたり、自分から襟を正して、胸を張って進級してほしいものです。修了式に向けて、有終の美を！

【学校で黙とうを行いました。】

○3.11は忘れられない日です。平成23年3月11日、午後2時46分に発生した東日本大震災から8年の年月が経ちました。学校では、震災によって犠牲になられた方々やそのご遺族に対し、哀悼の意を表するため、黙とうを行いました。朝の放送にて説明を行い、その後、黙とう。まだ復興には程遠い地域もたくさんあり、行方不明者も多数いらっしゃいます。震災、特に津波による被害等で不幸にして亡くなられた方々、そのご遺族に対し、心より悲しみの気持ちを表すとともに、被害を受けた方々へのお見舞いの気持ちを表すため、黙とうを捧げました。